

配偶者の選択

— 学生レポートより —

An Analysis of Student Survey Responses on Mate Selection

塩原 紘 栄
SHIOHARA Tsunae

I. はじめに

成人に達しこれから社会に巣立っていく学生にとって、結婚は生まれ育った定住家族から自分の意志で作る結婚家族へと存立拠点を変更する、生活設計の句読点である。また家族社会論の中でも結婚は一つのテーマである。結婚年齢の上昇傾向と非婚現象が危惧されている現在、結婚と言う事に向き合うきっかけになることを願い、課題「出会いから結婚までの物語」を提出させた。

これらの物語は夢・憧れ、実体験、他人の経験など何れにしても結婚に対する潜在意識によって成り立っていると思われる。そこで物語から見えてくる配偶者の選択過程をまとめ、現代女子学生の結婚観を探ってみたので此処に報告する。

II. 調査

科目選択学生65名に「出会いから結婚までの物語」のレポートを課した。条件は一人の女性と一人の男性が出会ってから結婚に至るまでの道筋が分かる事と400字原稿用紙2、3枚の2点である。学生は全員女性、家庭からの通学生である。

紙数は指定の2、3枚が50編、2枚未満が3

編、4枚以上が12編であり許容範囲であったが結婚に至るまでの過程が不明瞭な4編を除外し61編を調査資料とした。

III. 結果と考察

1. 出会いから結婚への道

「出会いから結婚までの物語」は数多くの異性の中から特定の一人を配偶者として選択する過程を具体的に表わすものである。

選択の対象者はどのような形であれ出会う、または出会った人である。見合い結婚の多かった時代、出会いの場を設定する人がおり周りの人もそれが最良の方法としていた。しかし配偶者は自分自身で選ぶもの、先ず愛情が大切、の個人尊重が主流となり結婚へ至る道は各自の意思に任されてきている。

配偶者として選択できる相手は出会いの時点で独身・未婚が、年齢も大きく離れていないほうが望ましい。

次に選んではならない相手が社会的に規定されていて内婚外婚原理と呼び、外婚原理の中では近親婚の禁止が最も強い。

内婚原理は民族人種国家など大きな区分の中で同一が望ましいとする考え方、所謂国際結婚などを異質と見る考え方である。そのため階級

表1 物語の概況の結果

項目	区分1	区分2	区分3
女性の職業または年齢の記述	職業・年齢記述あり 42	片方のみあり 12	両方なし 7
男性の職業または年齢の記述	職業・年齢記述あり 35	片方のみあり 20	両方なし 6
女性男性の組み合わせ	両者とも職業または年齢の記述あり 30	職業または年齢の記述あり 29	両者ともなし 2
女性の設定	短大生、保育士など作者と重なる 39	4大生(卒)、異職種、など作者と重ならない 10	不明その他 12
出会った男性の設定	4大生(卒)、社会人など 37	同期生、短大生など女性の設定と同類 15	不明その他 8
出会い後の登場人物	2人のみ 30	友人知人あり 26	親あり 8
出会いの始まり	認識していた 30	初対面 20	再会 11
初めての出会い	幼稚園から小学生の頃 6	中学生から高校生の頃 11	
場所設定	当地および近辺 32	デート先など遠方の地名記述あり 9	物語設定県外 20
出会いから結婚までのおよその年数	3年から5年 30	約3年以内 24	
進展状況	壁を乗り越える 28	順風満帆 22	悩み、いさかいあり 11

身分など内婚原理を犯した悲話が数多く語られていたが、現在は内婚原理の力は弱くなっている。また内婚には下位区分として更に同類婚・異類婚の区分がある。

個人の意思が尊重されると個人の行動範囲、社会的文化的諸属性、教育程度・職業・趣味や関心の同類の者同士が選ばれ易く、同類婚が多くなる。見合い結婚ではさらに家柄家格の釣り合いなど当事者以外の家単位について同類が選ばれていた。出会いの可能性は生活領域が近接している方が大きく、その後の接触や関係を深めやすい。

出会いの後はデート期間へと入る。デートでは交際する事それ自体を楽しみ異性を見る目を養い異性を通して自己の性の特質や役割を進めて行く。そしてデートで培われた能力により多くの交際相手から特定の一人を選択する。

この段階がプロポーズとなりそれを受け入れると相互に結婚相手として認め合う私的的了解が成立した事になる。これ以降は容易に相手を変えることを許されず責任ある立場となる。私的

了解を関係者に知らせることが婚約報告、婚約式、結納を交わす事である。

婚約が成立すると結婚生活に向けての準備が始まり、結婚へと至る。結婚は制度として、法的には婚姻届を提出する事(入籍とも呼び慣わす)で成り立ち、事実上の夫婦関係を持って生活する事(同棲、事実婚、内縁夫婦)とは異なる。一般的には結婚式で関係者に披露し、届を出すことを結婚ととらえることが多い。

2. 物語の概況結果

物語は出会いから結婚までの経過を示す事であり、そこには主人公(女性)とその相手となる男性の登場人物が必要である。その2人がどのように出会って、どのような経過を辿って結婚に至ったかを述べなければならない。

この経過には、人物や場所、期間、および状況描写に全くのフィクションもあるが、自分の願望・経験が少なからず投影されていると思われる。そこで登場人物、出会い状況などをまとめて表1に示した。

(1) 登場人物について

女性、および男性について、職業や年齢など具体的属性などの記述の有無を調べると表1に示したようになった。女性側の属性の記述はやや多いもののカップルとして属性の明白な組み合わせは約半数であり、ある女性とある男性としか分からない組み合わせも見られた。

これらの事から女性側の記述なしは自分自身を想定して物語を進めている可能性もあるが、細かな指定はしなかったものの現実として男性は何処の誰か不明でもよいと思っているのかに疑問を持った。

女性の属性の設定は短大生、富短生、保育士など自分自身と重なる設定が多かった。一方男性の設定は4大生、4大卒業生、社会人など女性より学歴や年齢が上と思われる設定が多かった。

この点では、女性の方が年下で学歴も一段下のほうが良いと言う世間的なジェンダー意識の常識に賛同している傾向がうかがわれた。

出会いのいきさつやきっかけ作りには友人などが登場するものの、その後の進展、婚約、結婚(式)に至る過程に2人のみの物語が半数を占めた。物語の中で親の登場は8編のみで、この点では結婚を私的な事として捉えている傾向が強かうかがえた。

(2) 出会いの状況

出会いの始まりは同窓、同期、通学途上、街中などで何となく認識していた仲が、あるきっかけによって再認識した事が約半数をしめた。紹介、介入、偶然による全くの初対面は全体の3割でその中にはお見合い2編も含まれる。また、以前になんらかの交流があり、憧れていた男性に偶然または集団の場での再会もある。

この事から出会いの相手は同じ生活圈の人を設定している場合が多いことが認められる。そ

して初めての出会いは中学生から高校生の思春期だけでなく幼稚園から小学生の頃にまでさかのぼる。初想いの相手に配偶者像を重ねる可能性の大きい事がうかがえる。

(3) 場所と年月について

出会いの場所や認識した場所についての記述は不明確な場合が多く、当地および近辺として不特定の場所である。はっきりと県外の地名が、出身地、進学地、勤務先、デイトの場所として記述にあった物語は約3割である。

これらの事を通して物語は特別の作為はなく日常生活の中で、または日常生活の延長線上の出来事と言う意識が強いように思われる。

出会いの始まりから結婚に至る年数ははっきりとは読み取れないが、大多数は5年内と思われる。

3. 物語状況描写の概況

物語描写が詳しいか、どうかを調べるために物語進展の描写の程度をした。表2には場面毎、例えば、出会いの経緯や状況、デイトの場面などについて示した。

(1) 場の状況

出会いの経緯・場の詳しい描写の物語が最も多く、不明点が少ない。

デイト場面の描写も詳しい。しかしプロポー

表2 物語の状況描写結果

項目	詳しい	普通	不明点あり
出会いのいきさつ	41	18	2
出会いの場	32	25	4
女性の状況	24	13	24
男性の状況	28	15	18
デイトの場面	37	14	10
プロポーズ・婚約	14	9	38
結婚式	9	40	12
心理描写	35	21	5
後日談あり	9	0	52(なし)

ズ婚約場面になると不明となる物語が約7割に及び、結婚式では普通の描写が約7割となる。出会いに関してと、デートに関しては経験、情報もあるので詳述できるが、婚約に関しては特に未経験なためと、婚約に関する情報が少ないためと思われる。

(2) 物語の展開

出会いの後、色々な経過場面を通過してゴールに向かうがゴールまでの道程は様々なはずである。平坦な道と険しい道とに分けて見ていくといわゆる何の障害もない順風満帆の物語が約3割ある。

何らかの障害、例えば遠距離、親の反対、片方の心変わりを、障害として認識し乗り越える物語は約半数で、最も多いのは遠距離である。その他にも小さいさかい、悩み程度で過ぎていく物語があり、ゴールに至るには双方の努力や忍耐・思いやりの必要を作者たちは理解出来ているためと思われる。

反対に、客観的には遠距離と思われる場合でも距離を意識していない場合もあり、結婚に至る多様性と複雑さを秘めていると思われる。

展開を示す項目として「3年後に結婚」、「2年後にプロポーズ」、「再会から1年」のような具体的な時間を示す数字が多く記述されていた。

4. 進展に至る要素

結婚に至るには出会いだけでは進まない。出会った事を認識して次のステップに踏み出す必要がある。そのステップは簡単に、双方向から自然に踏み出す場合もあるが、どちらかの決意や努力があって初めて踏み出せる場合もある。

そして交際が始まった後も、自分の配偶者としての確適切かを見極める行動が必要である。デートは会話、行為、心理を通して、欲求充足を経験をする重要な意味を持っている。

そこで、出会いの場、出会いから次のステップへと物語はどの様に進むかを見てみた。

(1) 出会いとその後の行動

出会いの場を区分1～3に分けて該当数を表3に示した。具体的には 出会いの場は飲食店が最も多かった。友人に誘われて行った先で、偶然の再会や初対面が「出会い」となる。飲食

表3 進展に至る要素

	区分1	区分2	区分3
出会いの場とその例	飲食店・集いの場 19 ・居酒屋 ・友人の結婚式 ・同窓会・成人式	学校・職場 16 ・体育館 ・保育園へ営業 ・新人研修	屋外・商業施設 15 ・海水浴場 ・サッカーの応援 ・花屋の店頭
出会いから次のステップへとその例	両方から、どちらからともなく 26 ・成人式で再会、付き合う ・趣味での知り合いケーキ好きが分かって ・食事で出会いメール交換	男性の働きかけ 19 ・初対面の後メール来る ・クラスメート、声掛けられる ・食事に誘われる	女性の働きかけ 16 ・期待して集まりに出席、気持ち伝える ・同窓会で会い進路相談 ・憧れの人に会い食事に誘う
欲求充足とその例	女性側からの欲求充足 33 ・自然体でいられる ・力になりたい ・相談に答えてくれる	男性への欲求 22 ・優しさ ・信頼・尊敬できる	男性の性格 7 ・努力家・子ども好き

店の中では居酒屋・飲み会の文字が目だった。同窓会、成人式も出会いの場としては多い。意中の人に会える事を期待して参加がする、が意識しないで参加するよりも多く、より積極的な行動が出会いに繋がっている。友人の結婚式も出会いの場として語られている。

学校も出会いの場としてよく登場する。何となく認識している仲間の中で、出会いを意識し始めるために、学内で非日常的な出来事・場が設定されている。

職場での例では職場担当の営業マンと親しくなる、アルバイトの店に客としてよく訪れる事が発端、大きな職場でたまたま研修で出会うなどがある。

野外の例では、遊園地やスポーツ競技場、乗り合わせたバスの中などがあり、この場合は偶然の初対面の例が比較的多い。

パソコンが始まりの出会いもあるがこの場合も当事者が直接会うことをしなければその後の進展はない。

そこで、出会いの後、物語が次のステップへ進む方法を区分1～3に分けて同じく表3に示した。両者から、どちらからともなく自然に次の段階へ進む例が最も多い。片方からの場合、男性側からと女性側からの差は小さく、女性側からの場合、「思い切って」の心理描写表現が多く見られ、更に出会いの次への行動ばかりでなくプロポーズと言う重要な段階でも見られた。何れの側からの行動にしる出会ってからの次の行動が必要となる。

(2) 男性に求める心情・性格

配偶者は日常生活を共にする間柄である。選ぶ場合に、いつも一緒に居たいと思うかが重要な鍵になる。人の活動は欲求充足を志向する活動と捉えると配偶者は最大の欲求充足をもたらす見込みの多い相手を探す行動であるともいえ

る。

例えば世話をしたい欲求をもつ人と、世話をして欲しい欲求を持つ人が一緒になれば2人の間にかわされる一つの行動によって、2人の異なった欲求が同時に満足されることになり、欲求相補性と呼ぶ。どんなタイプの異性を求めるか、自分自身はどんなタイプなのか、どんなタイプでありたいのか、よく話題とされる事である。

そこで、物語の中に、男性に対する欲求充足がどのように表れているかを調べた。

女性側からの欲求充足、即ち、自然体でいられる、相談に答えてもらえる、などが約半数を占めた。次に男性へのこうであって欲しいと言う欲求が多く、優しさと尊敬信頼の2項目に集中した。その他、努力家、子ども好きなど男性が持っている性格そのものを評価する表現が見られた。これらの心情認識は次の段階へ進む重要な要素である。

表4に女性の心理描写例を示した。

(3) 外見

物語を読み進めていると、前述したように女性の年齢や職業が不明でも作者と重ね合わせると物語の経緯を少しはイメージ出来るが、男性の年齢や職業が不明な場合は中々イメージ出来

表4 女性の心理描写例

2人の関係	告白を待つ、好きが中々通じない、彼に何があっても諦めない、幼いときからずっと覚えてくれていた、
その他の登場人物が加わった例	初恋の人に振られて、別れた彼を気にしながら、他の女性を好きになった彼を諦めない (3) 彼を好きになった友人を、応援していたが彼の束縛がいやで一時違う人に、振られた時に、何時も側に居てくれた人の愛に初めて気づく、

表5 男性の外見表現

全体的表現	かっこよく男らしい、男っぽい、堂々とした態度、遅しい、
表情	笑顔が素適、笑顔が幸せな気分にしてくれる、仕事に一生懸命なキラキラの目、

ない。そしてイメージのわからない要因に男性の顔、身長、スタイルなど外見の描写が少ない事に気付いた。

好ましい外見をタレントの中に見だし熱中する様は今も、昔も変わらないと思われるが具体的な描写は表5に示した程度である。相手を選ぶとき、顔・外見よりも心・気持ちが大切な事を納得しているからと思われる。

しかし、出会いは相手を見ることで始まり、その時点で自分の中にある基準に随って男性の外見を素早くチェックしているものの、文字では表現出来ない微妙な感覚のためであると思われる。

(4) 乗り越える壁

表1の進展状況で見たように、出会いから結婚まで何の障害・壁もない物語が約3割を占め、途中で何らかの壁や問題が起こるのは約7割である。それらも初期の段階で持ち上がり間もなく比較的穏やかに解決してしまう事が多い。

しかし、告白し付き合いが始まってからの壁として認識している事を見ても客観的に大きな壁とみなせる状況は少ないが当面の壁は遠距離、次が思うように会えなく付き合いを解消するか迷う事などである。会いたい時に何時でも会える、が理想のようだが現実を受け容れて無事進展していく内容で約10編あった。

一度裏切られた彼を本当に信じていけるか、女性に持てる彼への嫉妬心に悩む心情など心理面の悩み・壁を表わした物語も数題あり、微妙

な女性心理を良く表現出来ていると思った。母親同士の不仲から大反対に会いながら説得を重ねついに許してもらえるとというドラマ性に富んだ物もあった。

5. 結婚の決意の場面・状況

表2に示したようにプロポーズ、婚約の状況を詳述した物語は3割に満たないが結婚を決意した時点で、2人の生活設計はある程度描かれていなければならない。しかし、具体的な生活設計と言える記述は少なかった。

(1) 住居

居住地、住宅・住居については、他県など遠距離の場合は記述が見られるものの、物語が日常生活範囲の狭い地域での出来事であれば転退職の必要はなく、住む場所さえ決まれば何も変えなくても結婚生活は行われる。結婚後、親と同居か別居かのどちらを選ぶかが問題視されていたのは過去となりとりあえず賃貸で2人だけの生活を始めるのが当たり前になっていることを実感させられる。

(2) 職業

結婚生活は経済生活が大きな柱となる。しかしそれらしい記述のある例は数編に過ぎず、男性の有職・無職も明白でない物語もある。これは出会いの時点で学生の場合が多く、その後の卒業・就職の記述のない編や、男性の職業に一度もふれてないためである。

しかし、独立して生活を営むためには収入のあることが大前提と思われるので職業について調べ表6に示した。

男性の場合、職業・職種の特定できる編は約半数、職種は分からないが就職の表現がある物語は約2割、全く不明の物語が2割弱である。有職の事実がないと物語は現実味を失わせるおそれがある。特定できる職業としては会社員が

表6 婚約または結婚時の職業

	区分1	区分2	区分3
男性の職業	職業に就いている 会社員、IT関係の会社員、教員、体育の高校教員、造園業、 34	職業に就いている 職種は不明 14	不明 13
保育士を職とする 女性 18	結婚後も継続 3	結婚を機に退職 1	不明 14

表7 経済生活についての記述例

<p>彼が仕事に就いたばかりで経済的苦労覚悟で胎児を育てる 彼が結婚のため派遣社員から正社員になって働く 彼が将来に向けて彼が4大に編入 彼の就職後ゆとりが出る頃、求婚結婚 起業の意思を持つ彼を共に支える決心 女性の23歳結婚の希望を叶えるため、彼が2年間で資金を貯める事を宣言</p>	<p>彼が3年働いて貯金 彼が地元で就職、順調になったから 自営の彼の手伝いを望まれるが保育士を続ける事を説得 月収 万円ですべて行けるか心配 自分の仕事に誇り 2人とも教師志望、実現 安定した職業に就いていることが条件</p>
---	--

最も多かった。

女性の場合、保育士、卒業して保育士など学生自身の進路に相当する職業は18例見られたが、この人たちは男性の居住地に行くので退職が1人、結婚後も続けるが2人で、残り14人は何の記述もなかった。保育士以外の職業の場合も仕事の継続に関しての記述は少ない。先述したように女性の生活も結婚を機に大きく変わるとは思わない時代になっているためと思われる。

職業についての記述が明白でない場合も、経済生活についての記述があったので例を表7に示した。

IV おわりに

結婚が適齢期、一人前の社会人など様々な面で強制され強い反対反発もない時代から、近年は結婚そのものが本人の意思に任され、親も強制出来ないほど自由になったと言われている。

しかし、現実には本人の努力や周囲の温かい見守りの中で大多数が結婚に至っている。しかし、以前のように生活面で自立できない男性

と、経済面で自立できない女性との相補性の組み合わせは減少し、結婚年齢の上昇、結婚願望低下の現象を来たしていると思われる。

今回のレポートを通して学生たちは条件設定に未熟さはあるものの「出会いから結婚までの物語」を完成させた。そしてどの物語も「2人でいれば幸せ」の心情が貫き、改めて憲法24条の「婚姻は両性の合意のみに基づいて成立する」の重要性を実感した。

最後に、「出会いから結婚までの物語」を創作した幼児教育学科学生に深謝しますと共に、幸せな出会いと結婚が実現する事を、心よりお祈り致します。

参考文献

- ・望月 嵩：青年期の異性交際（新しい家族社会学4訂版） 培風館. 2001
- ・善積 京子：結婚制度のゆらぎと新しいパートナー関係（結婚とパートナー関係） ミネルヴァ書房. 2000.
- ・山根 常男：結婚とは何か（家族と結婚） 家政教育社1990

